

新人獣医師の酪農実習

皆様こんにちは。桜もやっと咲き、スラリーのニオイにうっ通りの新人の茅野です。先日美馬農場で約1週間の酪農実習をさせて頂きました。この場をお借りして簡単なレポートを掲載させていただきます。

はじめに

たった1週間の実習で酪農の「ら」の字も理解したとは到底言えないし、手搾りが農家さんのように超高速になったとも思わない。実習中は動き続ける従業員の方々にただただ圧倒されていた。しかしこれから自分が付き合っていく「酪農」というものに、最初にしっかりと触れられたことは大変有意義であったと感じている。



フカフカ気持ちいい砂のベッド

外仕事

基本は除糞と砂のベッドならし。その繰り返しが重要だと教えられた。牛がパーラーに移動する際は牛舎の様子・雰囲気等を観察するのも忘れない。ベッドは牛が安静に過ごせるだけでなく、乾燥を保ち疾病予防の効果も併せ持たなければ意味がないという。後方から前方に向かって手作業でならかな傾斜をつけていく。ベッドならしの繊細な手さばきは惚れ惚れしてしまうほどであり、早さもさることながらその仕事の丁寧さに驚いた。

搾乳

朝、昼、夜の3回搾乳のうち、朝と昼のみ実習させてもらった。「殺菌なしの生乳をそのままでも(自分たちが)飲みたくなるように搾る」そう話してくれた方はしゃべりながらも、前搾り、プレディッピング後の乳房の張った牛から2頭も3頭もミルクをつけていた。途切れない一連の作業は美しく、前搾りさえ満足にできない自分は焦って出た汗を拭き取ることしかできなかった。

育成(哺育)

哺乳や毎日行っているベッドの乾草交換などをやらせてもらったが、こんなにも根気と体力を使う仕事であるということを知った。担当の方々は1頭1頭に目をかけ、熱を測り、ミルクの飲みやエサの食いを毎日記録していた。その姿は文字通り子牛のお母さんのようであった。

これから...

「酪農家と同じ目線にいることはもちろん大切だが、同じ視点で物事を見ていては意味がない。THMSの獣医として牛を、群を、牛舎を見てほしい。そして獣医学的な助言だけでなく、酪農に関連する様々な情報を提供してほしい」

優社長に言われたこの言葉が頭に残っている。個体診療はもちろんのこと、休みなく働いている農家さんに代わって得た様々な情報を還元できるような、またそうしたアドバイスを求められるような関係をこれから多くの農家さんと築いていきたい(もちろん知識と技術を伴って!!)。

最後となりましたが、優社長をはじめ美馬農場の従業員の皆様には大変お世話になりました。今後もこの経験をしっかりと活かせるよう一層努力していきます。ありがとうございました。



人にも牛にも優しい環境づくり

茅野 大志
(かやの たいし)